

SAIN  
ESSAY

## ウオードの箱

ウオードの箱のお話に入る前に、まずはご紹介しなければならぬ人物がいます。

それは、アメリカの絵本作家・挿絵作家・ガーデナー・人形作家である、ターシャ・テューダーさん（1915年8月28日〜2008年6月18日／以下「ターシャ」と呼称）。

50歳代半ばよりバーモント州の小さな町のはずれで自給自足の一人暮らしを始め、1800年代の農村の生活に学び、彼女の住む広大な庭で季節の花々を育て続けるライフスタイルは、日本でも注目を浴びました。

世界中のガーデナーを魅了するターシャの森は「地上の楽園」と呼ばれ、現在も孫へ、ひ孫へとそのライフスタイルごと受け継がれています。

詳しくは割愛いたしますが、ご興味があれば

是非一度その暮らしを覗いてみてください。

ウオードの箱はそのターシャの暮らしの中にも登場いたします。

ナサニエル・バグショー・ウオード医師が1829年頃にロンドンで発明したガラスの器で、とてもザックリとした説明で申し訳ないのですが、その箱の中では水分の循環が永続し、植物が長く生き続けられるという仕組みが生まれるのだとか。

機械的なことは一切無く、只々自然の循環に満ちた、いわゆる小さな自然界とも呼べる空間を作りだしてくれる不思議な箱なのです。

このウオードの箱から学べるのは、人間が扱い易いように自然を制御するのではなく、自然



Wardian Case

が元々持っている生命の育みに私たち人間が寄り添っていくこと、それこそが大切なのだということ。

私たち人間も自然の一部。

ターシャのライフスタイル、そしてこの小さな自然界ウオードの箱の存在の様に、自然に寄り添った暮らしは破壊ではなく再生と循環を生み出し、未来へと繋げていくことができます。

自然の暮らしへの共感がより深まりを増した、そんなエピソードでした。

皆様の暮らしにも、何か新しいささやかな発見と幸せが訪れますように。



浦上 日章  
Text by  
Urakami Nissho